

つくば常民大学2月(第41回)

講師：須崎文代氏（神奈川大学建築学部准教授）

題目：「近・現代における台所の変容－“茨城県映画”を題材に」

日時：2025年2月20日（木）午後1時～3時半

場所：つくば市二の宮交流センター

※ 参加自由・要資料代

暮らしの近代化のなかで、もっとも大きく変化したもののひとつに台所が挙げられる。それ以前の台所では、床の上に直接まな板をおき、膝をついたりしゃがんだりして作業をおこなう蹲踞式（ユカ坐）の炊事が一般的だった。台所には大きな土間があり、その土間と床上をうまく使いわけながらさまざまな営みがおこなわれていた。

しかし生活改善運動など近代化が進められるなか、衛生的で機能的な台所が理想とされ、立働式への改変がおこなわれた。さらに換気や流しの設備など様々な改良が展開され、それは都市住宅から、次第に農村住宅へも普及していった。

今回は暮らしの中心ともいえる台所の変容について、以下の点を中心に話します。

- ① 近代における台所の変容
- ② 「茨城県映画」にみる農村住宅改善と台所改良
- ③ 今日的取り組み：小さな地球プロジェクトとシェアキッチン



江戸期農家の台所（江戸東京たてもの園）



「茨城県映画」に撮られた食卓風景

（『新しき村』1952年）